

日本気管食道科学会より

『喉頭全摘症例の下気道保護対策の現状についての全国調査』 について

➤ 研究（調査）の目的と概略

喉頭全摘を施行された方は、手術前と比較して冷たく乾燥した空気を吸うことになり、喀痰排泄の増加や気管からの出血が多くなるため有効な対策の検討と周知啓発が急務とされています。本研究は、日本中で喉頭全摘を施行された方々が、術後の下気道保護をどのようにされているのかについて現状把握を後方視的に集積することで、喉頭全摘後の適切な気道管理について提言することを目的とします。

➤ 研究（調査）の方法

日本気管食道科学会専門研修施設にて、「疾患の種類を問わず喉頭全摘を施行された症例」に該当する診療録を用いて、匿名化された患者情報を収集して後方視的な分析を行います。

➤ 研究（調査）の参加施設

日本気管食道科学会認定研修施設

➤ 調査期間

理事会承認日から3年間

➤ 調査の対象となる患者さんへ

本研究はカルテを用いた研究ですので患者さん本人からの新しいデータ収集は行いません。そのため、研究による患者さんへの新たな負担や不利益は生じません。また、患者さんの個人情報に関する調査結果を公表することは一切ありません。

➤ この調査への協力は任意です。

本研究にご自身のカルテが用いられることを希望しない場合は主治医へその旨をお申し出ください。調査協力に同意されなくとも患者さんへの不利益は一切ありません。

➤ お問い合わせ先

この研究は、日本気管食道科学会臨床研究委員会が研究事務局を担当しています。

研究責任者：四宮 弘隆（施設名）神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉・頭頸部外科

お問い合わせ先

特定非営利活動法人日本気管食道科学会 事務局
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-11 陽臨堂ビル2F

E-mail : jbes@kishoku.jp